

エホバに忠誠を尽くす人は幸せ

「エホバ、あなたの天幕にとどまるのは誰ですか。.....忠誠を尽くし、正しいことを行い、心に真実を語る人」。詩編 15:1, 2 エホバ、あなたの天幕にとどまる(*でもてなされる)のは誰ですか。あなたの聖なる山に住むのは誰ですか。2 非難されるところがなく(*忠誠を尽くし)、正しいことを行い、心に真実を語る人脚注

124 番の歌 揺るぎない愛

何を学ぶか*聖書はクリスチャンに対して、上位の権威つまり人間の政府に従うようにと教えています。しかし、一部の政府は、エホバとエホバに仕える人たちに公然と反対しています。ではどうすれば、人間の支配者に従いつつエホバに忠誠を尽くせるのでしょうか。



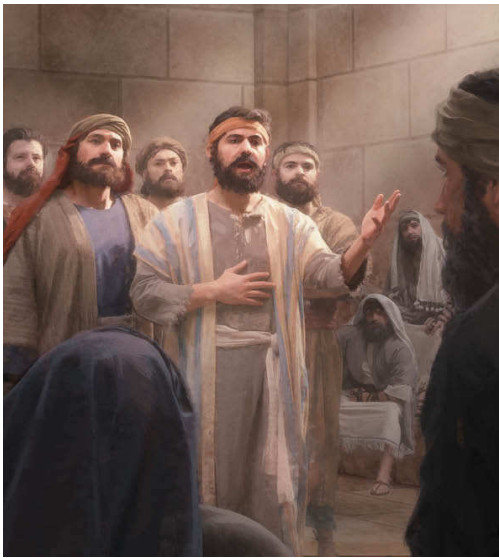
エホバの主権を揺るぎなく支持したために投獄を経験してきた勇敢な兄弟姉妹たち。（1-2 節を参照。）

1-2. (ア) 一部の政府は、エホバに仕える人たちにどんなことをしてきましたか。それに対して、エホバに仕える人たちはどう応じていますか。(イ) 迫害されても幸せでいられるのはどうしてですか。（表紙の写真からもコメントしてください。）

(ア) 現在、世界の 30 余りの国や地域で、エホバの証人の活動が禁止されたり制限されたりしています。中には、当局によって投獄されている兄弟姉妹もいます。いったい何をしたというのでしょうか。エホバの目から見れば、何も悪いことはしていません。兄弟姉妹が行ったのは、聖書を読んで学ぶこと、自分が信じていることを人に伝えること、仲間と一緒に集会に出席することです。また、政治の面であくまでも中立の立場を保ってきました。これらの忠実な兄弟姉妹は、厳しい反対に遭ってもエホバへの忠誠を貫き、揺るぎない専心を示してきました。*語句の説明: エホバに忠誠を尽くすためには、試練の下でもエホバとエホバの主権を揺るぎなく支持する必要があります。そして、その結果幸せを感じています。

2 あなたも、こうした勇敢な兄弟姉妹が笑顔で写っている写真を見たことがあるでしょう。(イ)これらの兄弟姉妹が喜びにあふれているのは、エホバに忠誠を尽くしていることをエホバが喜んでくれていると分かっているからです。(代一 29:17 前半)私の神、私は、あなたが心を調べ、清い心(*忠誠心/正直な心)を喜ばれるのをよく知っています。私は、これらの物全てを誠実な(*正直な)心で進んで捧げました、脚注) イエスはこう言いました。「正しいことをして迫害されてきた人たちは幸福です。……喜び、歡喜しなさい。天での報いは大きいからです」。(マタ 5:10-12 正しいことをして迫害されてきた人たちは幸福です。天の王国はその人たちのものだからです。11 私のために非難(*侮辱)され、迫害され、悪意のあるうそをいろいろ言われるとき、あなたたちは幸福です。12 喜び、歡喜しなさい。天での報いは大きいからです。以前の預言者たちも同じように迫害されました)

倣うべき手本



法廷で信仰を擁護しなければいけない現代のクリスチャンにとって、ペテロとヨハネは良い手本となっている(3-4 節を参照。)

3. [使徒 4 章 19, 20 節](#)によると、1 世紀の使徒たちは、迫害を受けた時どうしましたか。なぜですか。

3 1 世紀の使徒たちも、これらの兄弟姉妹と同じような経験をしました。イエスについて語ったために迫害されたのです。ユダヤ人の高等法廷の裁判官たちから何度も、「イエスの名によって語るのをやめるように」と命じられました。(使徒 4:18 そして 2 人を呼び、イエスの名によって何も言ったり教えたりしてはならないと命じた; 5:27, 28) こうして使徒たちは連れてこられ、サンヘドリンの前に立たされた。大祭司が質問して、28 言った。「もうあの名によって教えるべきではないときっぱり命じたのに、あなたたちはエルサレム中で教えるを止め、あの男が死んだ責任を私たちに負わせようとしている」、40 皆はガマリエルの意見を受け入れ、使徒たちを呼び出して打ちたたき、イエスの名によって語るのをやめるようにと命じてから去らせた) 使徒たちはどうしたのでしょうか。(使徒 4:19, 20) しかし、ペテロとヨハネはこう答えた。「神よりもあなた方の言うことを聞く方が、神から見て正しいことなのかどうかは、自分たちで判断してください。20 しかし、私たちとしては、見聞きしたことについて話すのをやめるわけにはいきません」を読む。) 彼らは、自分たちがもっと高い権威から、キリストについて「民に伝道して徹底的に知らせるように」と命じられていることを理解していました。(使徒 10:42 この方は、自分が生きている人と死んでいる人を裁くために神によって定められた者であることを、民に伝道して徹底的に知らせるように、と命じました) それで、ペテロとヨハネは使徒たちを代表して、勇気を持って、裁判官たちではなく神に従うと述べ、イエスにつ

いて話すのをやめるわけにはいかない」と言いました。裁判官たちに対していわば、「**あなた方は神よりも自分たちに従うべきだ**と**言っているのですか**」と尋ねていたのです。

4. [使徒 5 章 27-29 節](#)によると、使徒たちは真のクリスチャンのためにどんな手本を残しましたか。私たちはどのように倣えますか

4 使徒たちは、「**人ではなく神に従う**」という**立派な手本を残**しました。真のクリスチャンは皆、これまでずっとその手本に倣ってきました。（[使徒 5:27-29](#) こうして使徒たちは連れてこられ、サンヘドリンの前に立たされた。大祭司が質問して、28 言った。「もうあの名によって教えるはならないときっぱり命じたのに、あなたたちはエルサレム中で教えを広め、あの男が死んだ責任を私たちに負わせようとしている」。29 ペテロとほかの使徒たちは答えた。「私たちは、**人ではなく神に従わなければ(*統治者に従うように従わなければ)**なりませんを読む。') 使徒たちは、**忠誠を貫いたために打ちたたかれた後**、「**イエスの名のために辱められる**という**栄誉を与えられたことを喜びつつ**」,**ユダヤ人の高等法廷から出ていき**、**伝道を続け**ました。（[使徒 5:40-42](#) 皆はガマリエルの意見を受け入れ、使徒たちを呼び出して打ちたたき、イエスの名によって語るのをやめるようにと命じてから去らせた。41 使徒たちは、イエスの名のために辱められるという栄誉を与えられたことを喜びつつ、**サンヘドリンの前から出ていった**。42 そして**毎日、神殿で**、また**家から家へと行って教え**、キリストである**イエスについての良い知らせを広め続けて**、**やめなかった**）

5. どんな点について考える必要がありますか。

5 **使徒たちの手本**について**考えると**、幾つかの**疑問が生**じるかもしれません。1 世紀のクリスチャンは、**人ではなく神に従うこと**と、「**上位の権威に従わなければなりません**」という聖書の命令を守ることを、**どのように両立**させたのでしょうか。（[ロマ 13:1](#) **全ての人は上位の権威(*政府)に従わなければなりません**。神によらない権威はないからです。存在する権威は**神によって相対的な地位**(地位の高い低いはあるが、神よりは常に下位ということ)に据えられています) 私たちは**どうすれば**、パウロの言葉通り「**政府や権威者に従**」いつつ、最高の統治者である**神に忠誠を尽くす**ことができるのでしょうか。（[テト 3:1](#) **引き続き兄弟たちに次の事柄を思い起こさせてください。政府や権威者に従うこと、...**）

「上位の権威」

6. (ア) [ローマ 13 章 1 節](#)に出てくる「上位の権威」とは誰のことですか。私たちにはどんな義務がありますか。(イ) 人間の支配者全てについてどんなことが言えますか。

6 [ローマ 13:1](#) **全ての人は上位の権威(*政府)に従わなければなりません**。神によらない権威はないからです。存在する権威は神によって相対的な地位(地位の高い低いはあるが、神よりは常に下位ということ)に据えられていますを読む。(ア)ここに出てくる「**上位の権威**」とは、**権力を持っている人間の支配者**のことです。**クリスチャン**は、こうした**支配者や政府に従う必要**があります。当局は、**世の中の秩序を守り**、**法律を施行**し、**時にはエホバの証人を守**ってくださることもあります。（[啓 12:16](#) **しかし、地が女を助けた**。地は口を開けて、竜の口から吐き出された川をのみ込んだのである）それで、私たちは当局の求めに応じ**て税を納め**、**支払いをし**、**恐れや敬意を示**さなければなりません。（[ロマ 13:7](#) **全ての者に、差し出すべきものを差し出して**ください。税を求める者に**税を納め**、支払いを求める者に**支払いをし**、恐れることを求める者を恐れ、敬意を求める者を**敬う**のです）(イ)とはいえ、こうした**政府が権力を持**っているのは、**エホバ**

がそれを許しているからです。イエスは、ローマ総督ポンテオ・ピラトから尋問された時、この点を明らかにしました。ピラトが、自分にはイエスの命を救う権限も処刑する権限もあると言うと、イエスはこう言いました。「天から与えられていなかったなら、あなたは私に対して何の権限もないでしょう」。(ヨハ 19:11 イエスは答えた。「天から与えられていなかったなら、あなたは私に対して何の権限もないでしょう。それで、私をあなたに引き渡した人の罪はもっと重い) 同じように、人間の支配者や政治家が持っている権威も限られたものです。

7. ①私たちはどんな場合に人間の支配者に従うべきではありませんか。②支配者たちはどんなことをわきまえている必要がある？

7 クリスマスは、神のおきてを破ることにならない限り、人間の政府の法律に従います。とはいえ、神が禁じていることを行うよう求められたり、神が求めていることを禁じられたりする場合があります。それに従うことはできません。例えば政府は、若い人が国の軍隊に入って戦うことを求める場合があります。*この号の「昔のイスラエル人は戦争をしたエホバの証人がしないのはなぜ？」という記事を参照。また、私たちが使っている聖書や出版物を禁書にしたり、伝道や集会を行うことを禁じたりすることもあります。支配者たちはキリストの弟子を迫害するなどして権威を乱用するのなら、神から責任を問われることになります。エホバは全てを見ているのです。(伝 5:8 もし、貧しい人が虐げられ、辺りで公正や正義が侵されているのを見ても、そのことで当惑してはならない。高官は、さらに位の高い者の監視下にあり、その位の高い者の上にはさらに位の高い者がいるからだ)

8. 「上位」と「至上」にはどんな違いがありますか。その違いが重要なのはなぜですか。

8 「上位」とは、「順位、地位、位置がほかよりも上であること」です。しかし、最も上であるという意味ではありません。そうした意味を持つのは、「至上」という言葉です。ですから、人間の政府は「上位の権威」と呼ばれているとはいえ、もっと高い権威、つまり至上の権威があるということです。聖書の中でエホバ神は4回、「至上者」と呼ばれています。(ダニ 7:18 至上者の聖なる者たちが王国を受け、22 年月を経た方が来て裁きを下し、至上者の聖なる者たちが勝利を収めた、25 そして至高者に逆らう言葉を語り、至上者の聖なる者たちを絶えず悩ませ、時と法を変えようとします、27 王国と、統治権と、天の下の全ての王国の栄光は、至上者の聖なる者たちに与えられました)

「至上者」

9. 預言者ダニエルは幻の中で何を見ましたか。

9 預言者ダニエルは、エホバが至上の権威を持っていることをはっきり示す幻を見ました。①まず、4匹の巨大な獣を見ました。それは、過去と現在の世界強国を表しています。つまり、バビロン、メディア・ペルシャ、ギリシャ、そしてローマとそこから派生した英米世界強国です。(ダニ 7:1-3 バビロンのベルシャザル王の治世の第1年に、ダニエルは夢を見た。床に就いていた時に頭の中で幻を見たのである。それで、その夢を書き留め、見た内容を全て記録した。2 ダニエルは言った。「私が夜に幻を見ていて、天の四方の風が広大な海を波立たせていた。3 そして、4匹の巨大な獣が海から出てきた。それぞれ姿が異なっていた、17 この4匹の巨大な獣は、地上で権力を持つようになる(d*立ち上がる)4人の王です) ②次にダニエルは、エホバ神が天の法廷の王座に座しているのを見ました。(ダニ 7:9, 10 さらに見ていると、王座が据

えられ、年月を経た方が座った。その方の衣服は雪のように白く、髪の毛は真っ白な羊毛のようだった。王座は炎であり、その車輪は燃える火だった。10 その方の前から火が川のように流れ出ていた。その方に仕えている者は千の千倍、その方の前に立っている者は1万の1万倍いた。法廷が開廷し、書物が開かれた。この幻の続く部分は、現代の支配者たちにとって警告となっています。

10. ①ダニエル7章13、14、27節からすると、エホバは地球を統治する権威を誰に与えますか。②このことから、エホバについてどんなことが分かりますか。

10 ダニエル7:13、14 この夜、私が見ていた幻の中で、今度は天の雲と共に人の子のような者がやって来た。その者は年月を経た方に近づくことを許され、その方のすぐ前に連れてこられた。14 その者に統治権と栄誉と王国が与えられ、あらゆる民族や国や言語の人々が彼に仕えるようにされた。その統治は終わることなく永遠に続き、その王国は滅ぼされることがない。27 王国と、統治権と、天の下全ての王国の栄光は、至上者の聖なる者たちに与えられました。彼らの王国は永遠に存続し、全ての国の人々は彼らに仕え、従いますを読む。①神は、人間の政府から全ての権威を取り上げ、もっとふさわしく、もっと強力な者たちにそれを与えます。誰に与えるのでしょうか。「人の子のような者」つまりイエス・キリストと、「至上者の聖なる者たち」つまり「いつまでも永遠に」統治を行う14万4000人です。(ダニ7:18 しかし、至上者の聖なる者たちが王国を受け、いつまでも永遠に王国を手に入れます) ②こうしたことを行う権威があるのはエホバだけなので、エホバが「至上者」であるということは明らかです。

11. エホバが国々に対して至上の権威を持っていることは、ダニエルのどんな言葉からも分かりますか。

11 ダニエルが見たこの幻は、ダニエルがそれ以前に述べていたことと一致しています。ダニエルは、「天の神[は]王を退けたり立てたり[する]」と述べました。また、「至高者が人間の王国の統治者であり、ご自分の望む者にそれを与え[る]」とも書きました。(ダニ2:19-21)すると夜、幻の中でダニエルに秘密が明らかにされた。そのためダニエルは天の神を賛美した。20 ダニエルは言った。「神のお名前が永遠にわたって(*永遠から永遠まで)賛美されますように。知恵と強大な力は神だけのものだからです。21 神は時や時期を変え、王を退けたり立てたりし、賢い人に知恵を、識別力のある人に知識を与えます。4:17 これは見張りの者たちによって布告され、この要請は聖なる者たちによって告げられました。そのようにして、至高者が人間の王国の統治者であり、ご自分の望む者にそれを与え、最も立場の低い人をさえその上に立てるということを、人々に知らせるためです) では、エホバはこれまで王を退けたり立てたりしたことがあるのでしょうか。確かにあります。

12. エホバが王を退けたどんな例がありますか。(挿絵を参照。)

12 エホバは、ご自分が「**上位の権威**」よりも上の至上の権威を持っていることを示してきました。3つの例を考えてみましょう。①**エジプトのファラオ**は、エホバの民を**奴隷**にし、**解放**することを**何度も拒**みました。でもエホバは、**ご自分の民を自由**にし、ファラオを**紅海で溺死**させました。（[出 14:26-28](#) エホバはモーセに言った。「海の上に手を伸ばしなさい。水はエジプト人の上、戦車と騎兵たちの上に戻る」。27 モーセがすぐ海の上に手を伸ばすと、夜が明ける前に海はいつもの状態に戻った。エジプト人は逃げようとしたが、**エホバはエジプト人を海の中に払い落**とした。28 戻っていく水が、**民を追って海に入ったファラオの全軍、戦車と騎兵たちに覆いかぶさ**った。誰一人生き残らなかった。②**詩 136:15** **ファラオと軍隊を紅海に振り落**とした) ②**バビロンのベルシャザル王**は、**宴会を開**いて、「**天の主に対して高ぶり**」、エホバではなく「**銀[や]金.....でできた神々を賛美**しました」。（[ダニ 5:22, 23](#)ところが、その方の子(*孫)であるあなたベルシャザルは、この全てを知らながら、謙遜になっていません。



エホバはベルシャザルから王国を取り上げ、メディア人とペルシャ人に与えた。（12節を参照。）

23 かえって、**天の主に対して高ぶり**、その**神の家の器を持ってこさせ**ました。そして、あなたと貴族たち、また側室やそばめたちは、**それを使ってぶどう酒を飲み、銀、金、銅、鉄、木、石でできた神々を賛美**しました。**何も見えず、何も聞こえず、何も知らない神々をです。**それなのにあなたは、**あなたの命と全ての道を掌握**しておられる神を**たたえてはいません**）でもエホバは、この**高慢な王を低め**ました。「**まさにその夜**」、**ベルシャザルは殺**され、その**王国はメディア人とペルシャ人に与**えられました。（[ダニ 5:28](#) **ペレス。あなたの王国は分けられて、メディア人とペルシャ人に与えられた、30, 31**まさにその夜、**カルデア人の王ベルシャザルは殺**された。31 **メディア人ダリウスが、およそ 62 歳の時にその王国を治め始めた(*与えられた)**) ③**パレスチナの王**だった**ヘロデ・アグリッパ 1 世**は、**使徒ヤコブを処刑**し、後に**ペテロを投獄**しました。ペテロのことも**殺したいと思**っていたのです。でもエホバは、ヘロデの**この計画を阻**みました。「**エホバの天使がヘロデを打**った」ので、ヘロデは死にました。（[使徒 12:1-5](#) その頃、ヘロデ王は会衆のある人たちを虐待し始め、2 **ヨハネの兄弟ヤコブを剣で殺**した。3 **それがユダヤ人に喜ばれるのを見て、さらにペテロも捕らえ**ようとした。（それは無酵母パンの時期だった。）4 **そしてペテロを捕まえて牢屋に入れ、4 人一組の兵士 4 組に交代で監視**させた。**過ぎ越しの後で民の前に引き出す(*裁判のために引き出す)つもり**だった。5 **ペテロは牢屋に入れられていたが、会衆はペテロのために熱烈に神に祈っていた、21-23**ある特別な日に、ヘロデは王の服をまとして裁きの座に座り、演説を始めた。22 **集まっていた人々は、「神の声だ、人の声ではない！」と叫び**始めた。23 **たちまちエホバ(*)の天使がヘロデを打**った。ヘロデが神をたたえなかったからである。ヘロデは**虫に食われて死**んだ)

13. エホバが連合する王たちを打ち負かしたどんな例がありますか。

13 エホバは、**連合する王たちに対して**も、ご自分が**至上の権威を持**っていることを**明らかに**してきました。①例えば、**イスラエル人のために戦い、互いに手を組**んでいた**カナン人の王たち 31 人**を**打ち負**かして**約束の地の大半を征服**できるように**助**けました。（[ヨシュ 11:4-6](#) **彼らは全軍を率いて**出てきた。海辺の砂のように大勢で、馬と戦車も非常に多かった。5 **これらの全ての王は団結し、イスラエルと戦うためにメロムの泉(d*水)に来て陣営を敷いた。**6 **エホバはヨシュアに言った。「彼らのために恐れてはいけない。明日の今ごろ、私は彼ら全てをイスラエルに渡し、殺させる。彼らの馬の膝のけんを切り、兵車を火で焼かなければならない」、20** **彼らの心が頑固になるままにしてイスラエルと戦うようにさせたのは、エホバだった。彼らに憐れみ**

を示さず、滅ぼし尽くすためだった。エホバがモーセに命じた通り、**彼らは全滅すべきだった**;[12:1](#) イスラエル人はヨルダン川の東側で、その地方の以下の**王たちを打ち破り**、アルノンの谷(*ワジ)からヘルモン山まで、またアラバの東部全体で**土地を取得**した。[7](#) ヨシュアとイスラエル人は、ヨルダン川の西側、レバノンの谷のバアル・ガドからセイルに面するハラク山まで、その地方の以下の王たちを打ち破った。(その後ヨシュアは彼らの土地をイスラエルの各部族にそれぞれの分に従って所有地として与えた。[24](#) ティルツアの王、1人。合計**31人の王**である) ②また、**ベン・ハダド**や**シリアの他の32人の王**に**完全な勝利を収められるようにも**しました。(王一 [20:1](#) シリアの**ベン・ハダド王**は**全軍を集めた**。**32人の他の王たちと馬と兵車も集めた**。ベン・ハダドは出ていってサマリアを包囲し、攻撃した。[26-29](#) 年の初め(春のこと)、ベン・ハダドはシリア人を招集し、イスラエルと戦うためにアフエクにやって来た。27 イスラエルの側も民が招集され、物資の供給を受けて、シリア人に立ち向かおうと出ていった。イスラエルの民はシリア人の前で陣営を張ったが、それは**ヤギの2つの小さな群れ**のようで、一方のシリア人は**回り一面に広がっていた**。28 真の神に仕える人がイスラエルの王の所に来て、こう言った。「エホバはこう言っています。『シリア人が、「エホバは山の神で、平原の神ではない」と言っているので、私はこの大勢の群衆を皆あなたの手に渡す。あなたたちは必ず私がエホバであることを知る』」。29 両軍は陣営を張ったまま7日間向かい合った。そして7日目に戦闘が始まった。イスラエルの民は1日のうちにシリア人の歩兵10万人を討った)

14-15. (ア) ネブカドネザル王とダリウス王は、エホバの主権についてどんなことを言いましたか。 (イ) 詩編作者は、エホバとその国民について何と言いましたか。

14 エホバは、ご自分が至上者であることをこれまで何度も示してきました。(ア)ある時、バビロンの**ネブカドネザル王**は、自分の「**偉大な力**」や「**輝かしい威光**」を**誇り**ました。謙遜さを示さず、**エホバが賛美を受けるのにふさわしい方であることを認めようとしなかった**のです。それでエホバは、ネブカドネザルが正気を失うようにしました。ネブカドネザルは**正気を取り戻した後**、「**至高者を賛美し**」,「**[エホバ]の統治は永遠に続[く]**」と認めました。また、「**誰もその方の行動を妨げることはでき[ない]**」とも言いました。(ダニ [4:30](#) 王は言った。「私はこの大いなるバビロンを、王家のために、また**私の輝かしい威光を示すために、自分の偉大な力で築いたのだ**」, [33-35](#) 途端に、その言葉通りのことがネブカドネザルに起こった。彼は人々の中から追いやられ、**雄牛のように草を食べ始め、体は天からの露にぬれた**。やがて**髪の毛はワシの羽根のように長く伸び、爪は鳥の爪のようになった**。34 「その期間の終わりに、私ネブカドネザルは天を見上げた。すると、正気に戻った。私は**至高者を賛美し、永遠に生きておられる方をた**たえた。その方の**統治は永遠に続き、その方の王国はいつの時代までも存続**するからである。35 地上に住む全ての者は無に等しく、その方は天の軍勢にも地上に住む人々にも望み通りのことを行う。**誰もその方の行動を妨げる(*手をとどめる)ことはできず**,『いったい何をしたのか』と言うこともできない) その後、**ダリウス王**の時代に、**ダニエル**は神への忠誠を試され、エホバによって**ライオンの穴から救い出**されました。それを見た**ダリウス**は、こう**命じ**ました。「**民はダニエルの神の前で畏れかしこまるように**。この方こそ**生きている神**であり、**永遠に存在**されるからである。**この方の王国は決して滅ぼされず、主権は永遠に続く**」。(ダニ [6:7-10](#) 王に仕える**役人、長官、太守、高官、総督**が皆で相談いたしまして、王に次のような法令を制定していただくとよいということになりました。30 日の間、**王以外の人や神に請願をしてはならず、背いた者はライオンの穴に投げ込まれる**, という**禁令**です。8 王よ、この法令を制定し、ご署名くださいますように。そうすれば変更できなくなります。メディアとペルシャの法律は取り消すことができないからです」。9 それでダリウス王は禁令に署名した。10 ダニエルは、法令に署名がされたことを知ると、すぐに自分の家に入った。屋上の部屋の窓はエルサレムに向かって開かれていた。ダニエルはそれまでいつもしていた通り、**日に3度ひざまずいて祈**

り、自分の神を賛美した、[19-22](#)夜が明けるとすぐ、王は起きてライオンの穴へ急いだ。20 穴に近づくと、悲しげな声でダニエルに呼び掛け、こう尋ねた。「生きている神に仕えるダニエル、あなたが常に仕えている神は、あなたをライオンから救うことができたか」。21 すぐにダニエルは王に言った。「王がいつまでも生き続けますように。22 私の神が天使を遣わして、ライオンの口をふさいでくださいましたので、私は無事です。私は神の前で潔白であり、王に対しても何も悪いことはしておりません」、[26, 27](#)私は次のことを命じる。私の王国の領土全域において、民はダニエルの神の前で畏れかしこまるように。この方こそ生きている神であり、永遠に存在されるからである。この方の王国は決して滅ばされず、統治(*主権)は永遠に続く。27 この方は人を助け、救い、天においても地においても奇跡(d*しるし)や不思議なことを行われる。ダニエルをライオンの爪から救ったのである、(脚注)

15 **詩編作者**はこう言いました。「**エホバは国々の策略をくじいた。人々の計画を阻んだ。エホバを神とする国民は幸せだ。神が所有物として選んだ民は**」。([詩 33:10](#) エホバは国々の策略(*意図)をくじいた。人々の計画(*考え)を阻んだ、[12](#) エホバを神とする国民は幸せだ。神が所有物として選んだ民は) ですから、**エホバに忠誠を尽くすのは本当にふさわしい** ことではないでしょうか。

最後の戦い



諸国家の連合体も、**エホバの天の軍勢には到底**かなわない。(16-17 節を参照。)

16. 「大患難」の時に**エホバがどんなことをしてくださると確信**できますか。**なぜ**ですか。(挿絵を参照。)

16 **ここまで**で、エホバが**過去に行ったこと**について取り上げました。**では、近い将来**にはどんなことが起きるでしょうか。「**大患難**」の時、エホバは**ご自分に忠実に仕える人たちを必ず救い出**してくださいます。([マタ 24:21](#) その時、世界の始めから**今まで起きたことがなく、いえ、二度と起きないような大患難**があるからです。[ダニ 12:1](#) その時、あなたの民のために立っている**偉大な長ミカエル**(誰が神のようだろうか)が**行動を起こし**(d*立ち上がり)ます。そして、国が始まってからその時まで**生じたことがない苦難の時**が来ます。その時、**あなたの民、書に記されている人は皆、逃れます**) **マゴグのゴグ**として知られている**諸国家の連合体**が**世界中で激しい攻撃を仕掛けてくる時**、**救い出**してくださるのです。もし仮に、国際連合に加盟している **193 カ国全てがこの連合体に含まれるとしても**、**至上者であるエホバと天の軍勢には到底**かないません。エホバはこう**約束**しています。「私は**必ず自分があがめられるように**し、自分を**神聖なもの**とし、多くの国の人々の目の前で**自分について知**らせる。**彼らは私がエホバである**ことを**知らなければならなくなる**」。([エゼ 38:14-16](#) それで、人の子よ、ゴグに預言しなさい

。『主権者である主エホバはこう言っている。「私の民イスラエルが安らかに暮らしている日に、あなたはそのことを気に留めないのだろうか。15 あなたは自分の場所から、北の果てから、多くの民と共にやって来る。彼らは皆が馬に乗り、大勢いて、大軍を成している。16 あなたは土地を覆う雲のように、私の民イスラエルを攻める。私は最後の日々に、私の土地をあなたに攻めさせる。それは、ゴグよ、私がさまざまな国の民の目の前で、あなたを通して自分を神聖なものとする時、それらの民が私を知るようになるためである」』、23 私は必ず自分があがめられるようにし、自分を神聖なものとし、多くの国の人々の目の前で自分について知らせる。彼らは私がエホバであることを知らなければならなくなる。詩 46:10 降伏し、私が神であることを知れ。私は国々でたたえられる。地上でたたえられる)

17. 聖書の予告によると、①全世界の王たちはどうなりますか。②エホバに忠誠を尽くす人たちはどうなりますか。

17 ①ゴグのこの攻撃がきっかけとなって、ハルマゲドンでの最後の戦いが始まり、エホバは「全世界の王たち」を滅ぼします。(啓 16:14 それらは邪悪な天使たちの息(*言葉。ギリ語プネウマ)であって、奇跡(d*しるし)を行い、全世界の王たちのもとに向かう。全能の神の大いなる日の戦争に王たちを招集するためである。16 それらの息(*言葉。ギリ語プネウマ)により、王たちはヘブライ語でハルマゲドン(*アルマゲドン。メギドの山という意)と呼ばれる場所に集められた。19:19-21 さらに見ると、野獣と地上の王たちとその軍勢が、馬に乗っている方とその軍勢に対して戦うために集まっていた。20 そして、野獣は捕らわれ、野獣の前で奇跡(d*しるし)を行った偽預言者も捕らわれた。偽預言者は、野獣の印を受けた者たちと野獣の像を崇拜する者たちを、奇跡(d*しるし)によって惑わしていたのである。野獣も偽預言者も生きたまま、硫黄が燃える火の湖に投げ込まれた。21 ほかの者たちは、馬に乗っている方の口から出ている長い剣で殺された。全ての鳥が彼らの肉で満腹になった) ②一方、「正直な人だけが地上に住み、忠誠を尽くす人が地上に残る」ことになります。(格 2:21 正直な人だけが地上に住み、非難されるところがない(*忠誠を尽くす)人が地上に残るからである、脚注)

私たちは忠誠を貫く

18. 大勢の真のクリスチャンは、①どんなことさえ行ってきましたか。②なぜですか。(ダニエル 3:28)

18 これまでずっと、大勢の真のクリスチャンは、①主権者である統治者エホバへの愛の気持ちから、自分たちの自由や命さえ懸けて行動してきました。②それらの人たちは、ダニエルの時代の3人のヘブライ人と同じような決意を持って、忠誠を貫いています。その3人は、至上者への忠実を保つために、火の燃え盛る炉に投げ込まれましたが、救われました。(ダニエル 3:28 ネブカドネザルは言った。「シャデラク、メシャク、アベデネゴの神が賛美されますように。その方は天使を遣わして、ご自分に仕える者たちを救った。彼らはその方を信頼し、王の命令に背いて死ぬ(*体を差し出す)ことになっても、自分たちの神以外の神に仕えたり、他の神を崇拜したりしなかったを読む。)

19. ①エホバはどんな人を支えてくださいますか。②私たちはどんなことを行うべきですか。

19 詩編作者ダビデは、忠誠を貫くことの大切さについてこう言っています。①「私が忠誠を尽くすので、あなたは私を支えてくださる。私を永遠にあなたの前に置いてくださる」(←詩 41:12) また、聖書は次のようにも述べています。「神は.....忠誠を尽くして歩む人のための盾となる」(格 2:7 神は正直な人のために、役立つ知恵を蓄え、高潔に(*忠誠を尽くして)歩む人のための盾となる、脚注)

②ですから、**どんなことが起きるとしても**、**エホバへの忠実を保ち**、エホバを**揺るぎなく支持**することこそ、**最高の生き方**なのです。そうすれば**幸せになる**ことができます。詩編作者が述べている通り、**エホバに忠誠を尽くし**、**正しいことを行い**、**心に真実を語る人**は、**エホバの天幕にとどまることができる**からです。（詩編 15:1, 2 エホバ、あなたの**天幕にとどまる**(*で、もてなされる)のは誰ですか。あなたの**聖なる山に住むのは誰**ですか。2 非難されるところがなく(***忠誠を尽くし**)、**正しいことを行い**、**心に真実を語る人**、脚注)

説明できますか

1. 私たちは使徒たちのどんな手本に倣えますか。

・S03 イエスについて語ったために迫害され、ユダヤ人の高等法廷の裁判官たちから何度も、「イエスの名によって語るのをやめるようにと命じ」られたが、彼らは、自分たちがもっと高い権威から、キリストについて「民に伝道して徹底的に知らせるように」と命じられていることを理解していて、裁判官たちではなく神に従うと述べ、**イエスについて話すのをやめるわけにはいかない**と言った。

・S04 使徒たちは、「**人ではなく神に従う**」という立派な手本を残し、**忠誠を貫いたために打ちたたかれた後**「イエスの名のために辱められるという栄誉を与えられたことを喜びつつ」、ユダヤ人の**高等法廷から出ていき伝道を続けた**。

2. 私たちはどんな場合には「上位の権威」に従いませんか。

・S07 クリスマスは、**神のおきてを破ることにならない限り**、人間の政府の法律に従うが、**神が禁じていることを行うよう求められたり**、**神が求めていることを禁じられたりする場合**、それに**従うことはできない**。例えば国の軍隊に入って戦うことを求められたり、聖書や出版物を禁書にしたり、伝道や集会を行うことを禁じられたりしても、従えない。

3. エホバはご自分が「至上者」であることをどのように示してきましたか。

・S10 神は、**人間の政府から全ての権威を取り上げ**、**もっとふさわしく、もっと強力な者たちにそれを与える**。「人の子のような者」つまり**イエス・キリスト**と「至上者の聖なる者たち」つまりいつまでも永遠に統治を行う**14万4000人**に。

・S12 **ご自分が「上位の権威」よりも上の至上の権威を持っていることを示してきた3つの例**。①**エジプトのファラオ**は、エホバの民を奴隷にし、解放することを何度も拒みました。でもエホバは、ご自分の民を自由にし、ファラオを紅海で溺死させた。②**バビロンのベルシャザル王**は、宴会を開いて、「天の主に対して高ぶり」、エホバではなく「銀[や]金……でできた神々を賛美したため、エホバは、この高慢な王を低め、「まさにその夜」、ベルシャザルは殺され、その王国はメディア人とペルシャ人に与えられた。③**ヘロデ・アグリッパ1世**は、使徒ヤコブを処刑し、後にペテロを投獄し殺したいと思っていたが、エホバは、ヘロデのこの計画を阻み、「エホバの天使がヘロデを打った」ので、ヘロデは死んだ。

・S13 **連合する王たちに対しても**、ご自分が至上の権威を持っていることを明らかにしてきた。①例えば、イスラエル人のために戦い、互いに手を組んでいた**カナン人の王たち31人**を打ち負かして約束の地の大半を征服できるように助けた。②また、**ベン・ハダドやシリアの他の32人の王**に完全な勝利を収められるようにもした。

・S14 **帝国の王たちでさえエホバの主権を認めていた**。例えば、①**ネブカドネザル王**は、エホバに対して尊大になったためエホバは正気を失うようにしたが、正気を取り戻した後、「**至高者を賛美し**」、「**[エホバ]の統治は永遠に続く**」と認めた。また、「誰もその方の行動を妨げることはできない」とも言った。②**ダリウス王**も、ダニエルがライオンの穴から救い出された後、「**民はダニエルの神の前で畏れかしこまるように**。」と命令し、「**この方こそ生きている神であり、永遠に存在されるからである。この方の王国は決して滅ぼされず、主権は永遠に続く**」と述べた。

・S15 **詩編作者も「エホバを神とする国民は幸せだ。」と述べた**

122番の歌 揺らぐことなく勝利を得る



「昔のイスラエル人は戦争をした エホバの証人がしないのはなぜ？」

「もしお前たちのうちのだれか一人がフランスや英国と戦うことを拒むなら、お前たち全員が死ななければならない」。第2次世界大戦中、あるナチの将校は、その場にいたエホバの証人たちに向かってこう怒鳴りました。近くには、重装備をした親衛隊員たちが待機していましたが、兄弟たちは誰一人妥協しませんでした。本当に素晴らしい勇気です。この手本には、私たちエホバの証人が共通して持っている信念がよく表れています。それは、この世界の戦争で戦うことは決してしないということです。たとえ殺すと脅されても、この世の中の争いに関してあくまでも中立を保ちます。

とはいえ、自分はクリスチャンだと言う人全てが同じように考えているわけではありません。多くの人は、クリスチャンは祖国を守ることができるし、そうすべきだ、と考えています。次のように思うのかもしれませんが。「昔のイスラエル人は神の民で、戦争をした。そうであれば、現代のクリスチャンが戦ってはいけないのはどうしてか」。あなただったら、どのように答えますか。昔のイスラエル人と現代のクリスチャンの状況が大きく異なっていることを説明できます。では、5つの点を考えてみましょう。

1. 昔の神の民は1つの国民だった

過去: エホバは、1つの国民、つまりイスラエルをご自分の民として選びました。イスラエル人のことを「あらゆる民の中から選ばれ[た]特別な所有物」と言っています。（[出 19:5](#)）また、イスラエル人に領土を割り当てることもしました。ですから、イスラエル人は神から他の国民と戦うようにと命じられるとしても、エホバを崇拝する仲間と戦ったり殺し合ったりすることにはなりませんでした。*****時にはイスラエルの部族同士が戦ったこともありますが、そうした戦いはエホバに喜ばれるものではありませんでした。（[王上 12:24](#)）とはいえ一部の部族がエホバに背を向けたり重大な罪を犯したりした場合には、エホバがこうした戦いをふさわしいとご覧になることもありました（[裁 20:3-35](#)、[代上 13:3-18](#)、[25:14-22](#)、[28:1-8](#)）

現代: エホバを崇拝する人たちは、「全ての国や民族や種族や言語の人々」から成っています。（[啓 7:9](#)）ですから、神に仕える人たちが戦争に参加するなら、仲間のクリスチャンと戦うことになってしまいうでしょう。仲間を殺してしまうことさえあり得ます。

2. エホバはイスラエル人に対して戦争に行くようにと命じた

過去: イスラエル人が戦いに行く目的やタイミングは、エホバが決めました。例えば、エホバはカナン人に対する処罰を実行するために、彼らと戦うようイスラエル人に命じました。カナン人は、邪悪な天使を崇拝したり、性的に非常に不道德なことを行ったり、犠牲として子供を捧げたり

することでよく知られていました。エホバは、約束の地からこうした悪い影響を取り除くようイスラエル人に命じました。（[レビ 18:24, 25](#)）また、イスラエル人が約束の地に住むようになった後には、横暴な敵から自分たちを守るために戦うよう命じたことも幾度かありました。（[サム二 5:17-25](#)）とはいえ、エホバはイスラエル人が自分たちの判断で戦いに行くことを決して許しませんでした。イスラエル人がそのようなことをした時には、大抵とても悪い結果になりました。（[民 14:41-45](#)。[代二 35:20-24](#)）

現代: エホバは人間に対して戦争をするよう命じてはいません。国々は、神のためではなく自分たちのために戦っています。領土を広げたり経済的な利益を得たりするため、また政治的な理由で戦っているのです。では、自分たちの宗教を守るため、あるいは神の敵を倒すために、神の名の下に戦っている、と主張する人たちについてはどうでしょうか。エホバは、将来の戦いつまりハルマゲドンで、ご自分を崇拝する者たちを守り、敵を滅ぼします。（[啓 16:14, 16](#)）この戦いにおいて神の軍隊を構成するのは、天にいる者たちであり、エホバを崇拝する人間は含まれていません。（[啓 19:11-15](#)）

3. イスラエル人はエホバへの信仰を示した人たちを殺さなかった

過去: イスラエルの軍隊は、エホバに信仰を示した人たちに憐れみを示し、エホバが処罰に値すると見なした人たちだけを殺しました。2つの例を考えてみましょう。エホバは、エリコの町を滅ぼすようにと命じていました。でも、ラハブが信仰を示したので、イスラエル人はラハブとラハブの家族を殺しませんでした。（[ヨシュ 2:9-16; 6:16, 17](#)）また後に、ギベオンの住民が神へのふさわしい恐れを示したので、町全体が守られました。（[ヨシュ 9:3-9, 17-19](#)）

現代: 戦いをする国々は、信仰を示す人たちの命を容赦してはいません。戦闘によって、罪のない民間人さえ犠牲になっています。

4. イスラエル人は戦いに関する神のおきてに従う必要があった

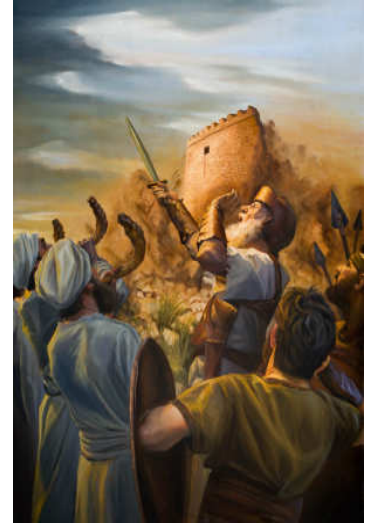
過去: エホバはイスラエル人の兵士たちに、戦争に関するご自分の指示に従うようにと言いました。例えば、敵に対して「和平の条件」を伝えるよう命じたことがあります。（[申 20:10](#)）また兵士に対して、自分や陣営を物理的にも道徳的にも清い状態に保つよう求めました。（[申 23:9-14](#)）周辺の国々の兵士たちは、征服した場所の女性を犯すことがよくありました。しかし、エホバはイスラエル人に対してそうしたことを行うことを禁じました。イスラエル人が捕虜の女性と結婚できるのは、その女性が捕虜になってから1カ月たってからでした。（[申 21:10-13](#)）

現代: 多くの国は、戦争に関する国際的な条約に合意しています。こうした条約は民間人を保護するためのものですが、残念なことに多くの場合、無視されています。

5. エホバはご自分の民のために戦った



昔のイスラエル人は、エホバの指示の下にエリコを攻めた時、ラハブとラハブの家族の命を容赦した。現代、戦争をしている人たちも同じように、神に忠実な人たちの命を容赦しているか。



神は、昔にエリコでイスラエルのために戦った時と同じようなことを現代でも行うか。

過去: エホバはイスラエル人のために戦いました。奇跡的な勝利を与えたことも幾度もあります。例えば、エホバはイスラエル人がエリコを攻略できるよう、どのように助けたのでしょうか。イスラエル人がエホバの指示に従って、「大きなときの声を上げるとすぐ、城壁は完全に崩れ落ち」ました。結果として、その都市を攻略しやすくなりました。（ヨシュ 6:20）アモリ人との戦いの時はどうだったのでしょうか。「エホバ[は]空から大きなひょうを降らせ」ました。「イスラエル人の剣で死んだ人より、ひょうで死んだ人の方が多かった」のです。（ヨシュ 10:6-11）

現代: エホバは、地上の国のために戦うことはありません。イエスが王として治める神の王国は、「この世界のものではありません」。（ヨハ 18:36）一方、サタンは人間の政府全てを自分の支配下に置いています。この世界で起きている恐ろしい戦争には、サタンの邪悪さがよく表れています。（ルカ 4:5, 6。ヨハ 5:19）

真のクリスチャンは平和をつくる

ここまで考えてきた通り、現代の私たちと昔のイスラエル人では、状況が大きく異なっています。とはいえ、私たちが戦争に行かないのは、こうした違いだけが理由ではありません。例えば、エホバの預言によると、終わりの時代にエホバに教えられる人たちは、「もはや戦いを学」びません。ですから、戦争に行くことは当然しません。（イザ 2:2-4）またキリストは、自分の弟子は「世の人々のようではない」と言いました。これはつまり、この世の中の争いに関しては中立を保つ、ということです。（ヨハ 15:19）

キリストは弟子たちに対して、もう一歩進んだ行動を取るようにも教えました。憤りや怒りや戦いにつながるような態度を避けるようにと教えたのです。（マタ 5:21, 22）そして、「平和をつくる人」になり、敵を愛するようにも言いました。（マタ 5:9, 44）

では、私たちはこの点をどのように実践できるのでしょうか。私たちは、戦争に行きたいと思うことはないでしょう。とはいえ、会衆の誰かを自分の敵のように思ってしまうことがあるでしょうか。そうした気持ちを心から取り除くよう、ぜひ努力を続けていきましょう。（ヤコ 4:1, 11）私たちは、国々の争いに関わるのではなく、兄弟関係がいつそう平和で愛にあふれたものになるよう努力しています。（ヨハ 13:34, 35）では、エホバが全ての戦いを終わらせてくださる時を楽しみに待ちつつ、中立の立場をしっかり保っていきましょう。（詩 46:9）

△ 時には、イスラエルの部族同士が戦ったこともありますが、そうした戦いはエホバに喜ばれるものではありませんでした。（王 12:24）とはいえ、一部の部族がエホバに背を向けたり重大な罪を犯したりした場合には、エホバがこうした戦いをふさわしいとご覧になることもありました。（裁 20:3-35。代 13:3-18; 25:14-22; 28:1-8）

△ （出 19:5） 私の声にしっかり従い、私との契約を守るなら、あなたたちは必ずあらゆる民の中から選ばれて私の特別な*所有物となる。地球全体は私のものである。